

和歌山県の地震

令和 8 年 9 月

1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
概況	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 4

2. 地震一口メモ

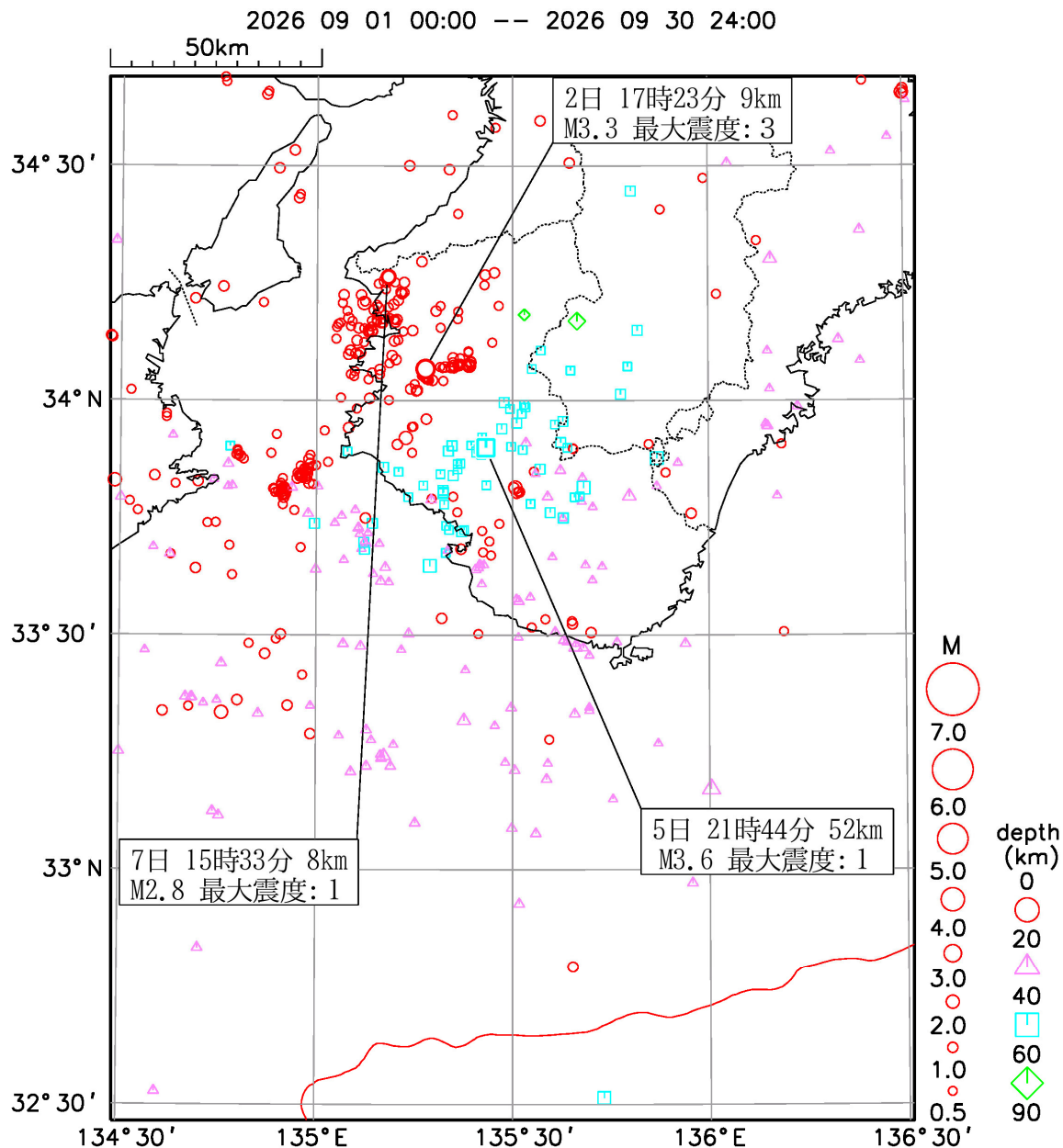
昭和南海地震発生から 80 年 ― 震度 ―	・・・・・・・・ 5
------------------------	------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

1. 和歌山県の地震活動

【 震央分布図 】



震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

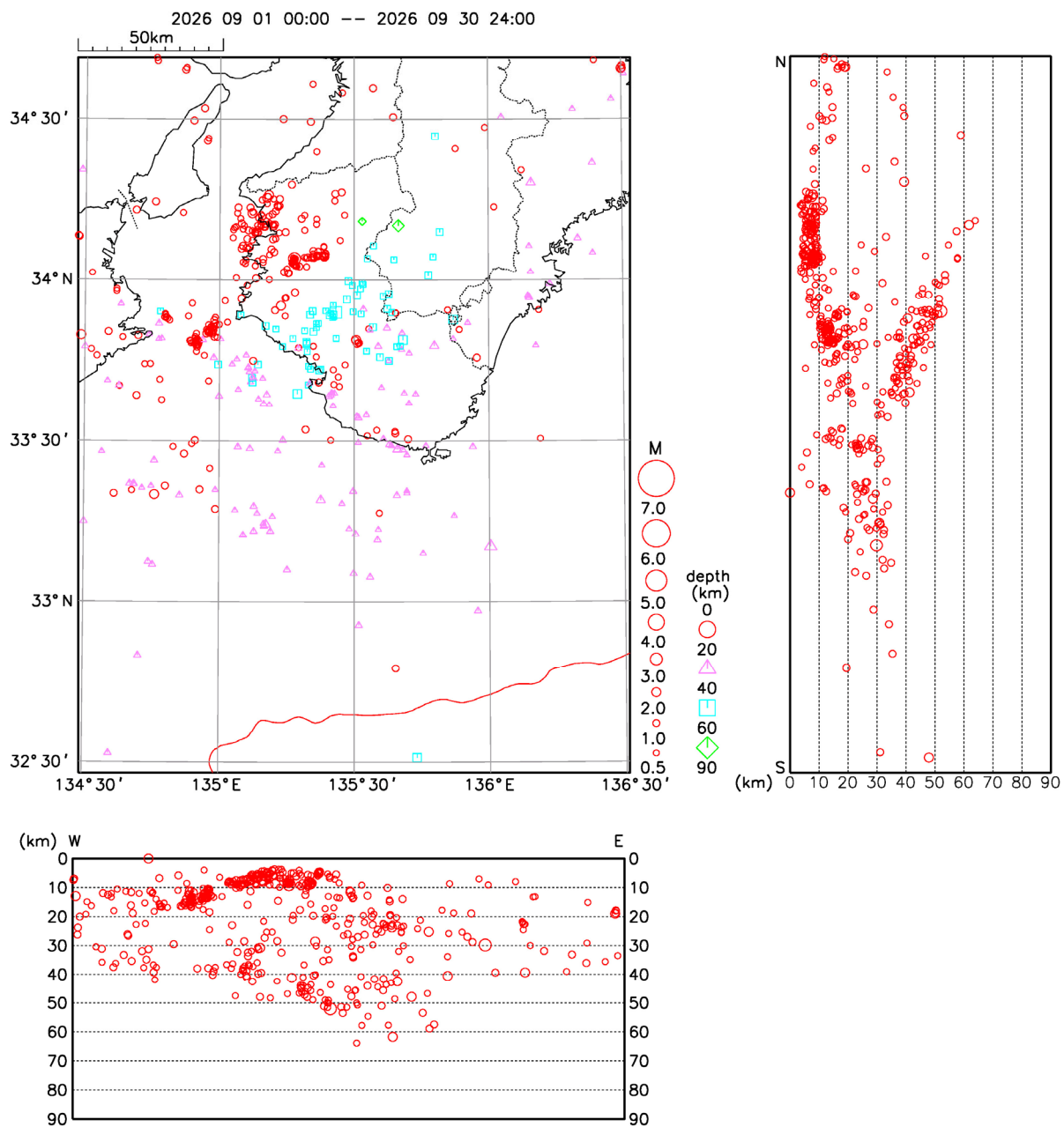
図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しており、日時、深さ、マグニチュード、最大震度を記載しています（最大震度は、和歌山県内とは限りません）。

【 概況 】

9月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は22回（前月は32回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、5日21時44分和歌山県南部の地震（M3.6、深さ52km）でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

9月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、3回（前月6回）でした。

【断面図】



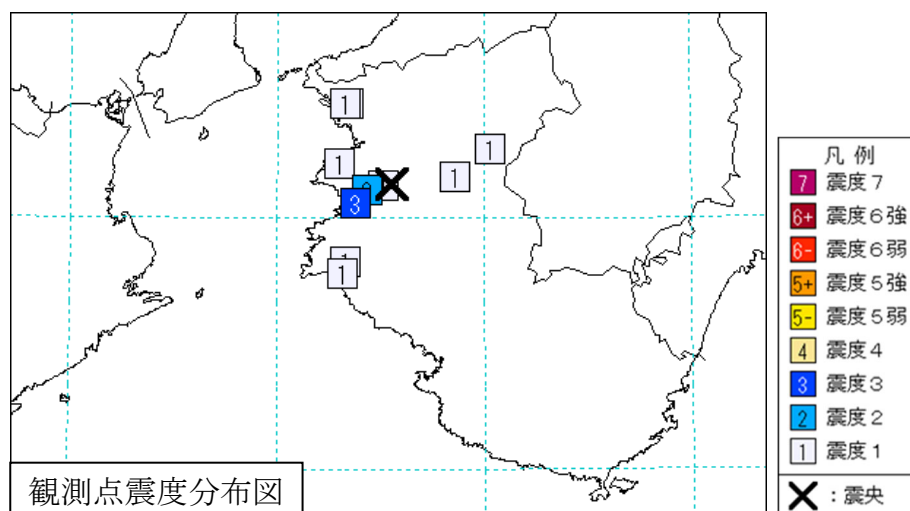
【 和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2026年09月02日17時23分	和歌山県北部	34° 04.0' N	135° 16.6' E	9km	M3.3
和歌山県	震度 3：湯浅町青木＊				
	震度 2：有田川町下津野＊				
	震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁＊, 海南市下津＊, 御坊市菌, 御坊市湯川＊ かつらぎ町花園梁瀬＊, 有田川町清水＊, 有田川町中井原＊				
2026年09月05日21時44分	和歌山県南部	33° 53.9' N	135° 25.9' E	52km	M3.6
和歌山県	震度 1：御坊市菌, 御坊市湯川＊, 湯浅町青木＊, みなべ町土井, 日高川町高津尾＊ 有田川町清水＊, 田辺市中辺路町近露, 田辺市中辺路町栗栖川＊, 田辺市本宮町本宮＊ 田辺市龍神村西＊, 田辺市東山＊, 白浜町日置＊				
2026年09月07日15時33分	和歌山県北部	34° 15.8' N	135° 10.9' E	8km	M2.8
和歌山県	震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁＊				

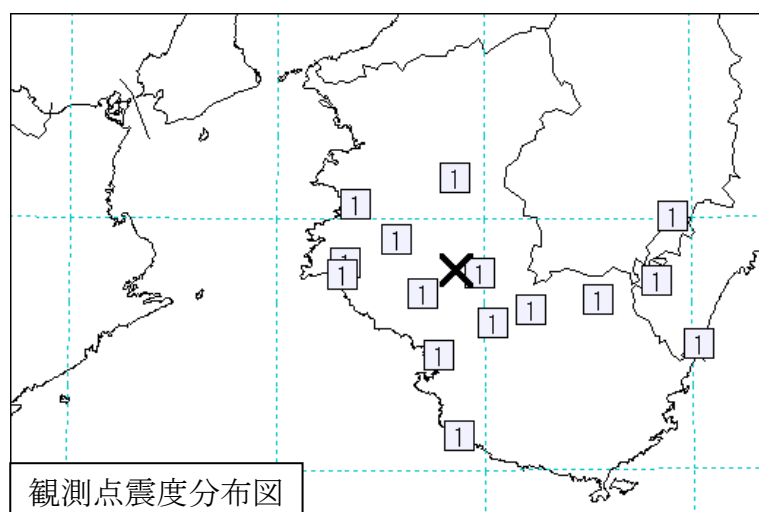
地点名の最後に＊のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【震度分布図】

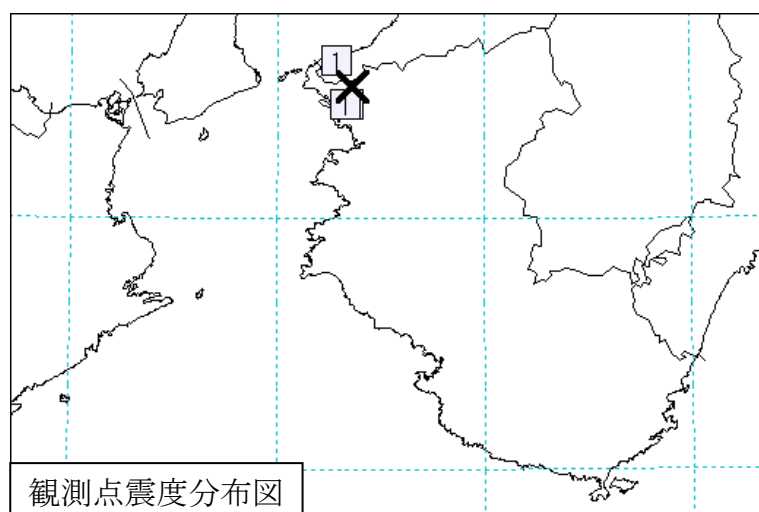
2026 年 09 月 02 日 17 時 23 分 和歌山県北部の地震（深さ 9km 、 M3.3）



2026 年 09 月 05 日 21 時 44 分 和歌山県南部の地震（深さ 52km 、 M3.6）



2026 年 09 月 07 日 15 時 33 分 和歌山県北部の地震（深さ 8km 、 M2.8）

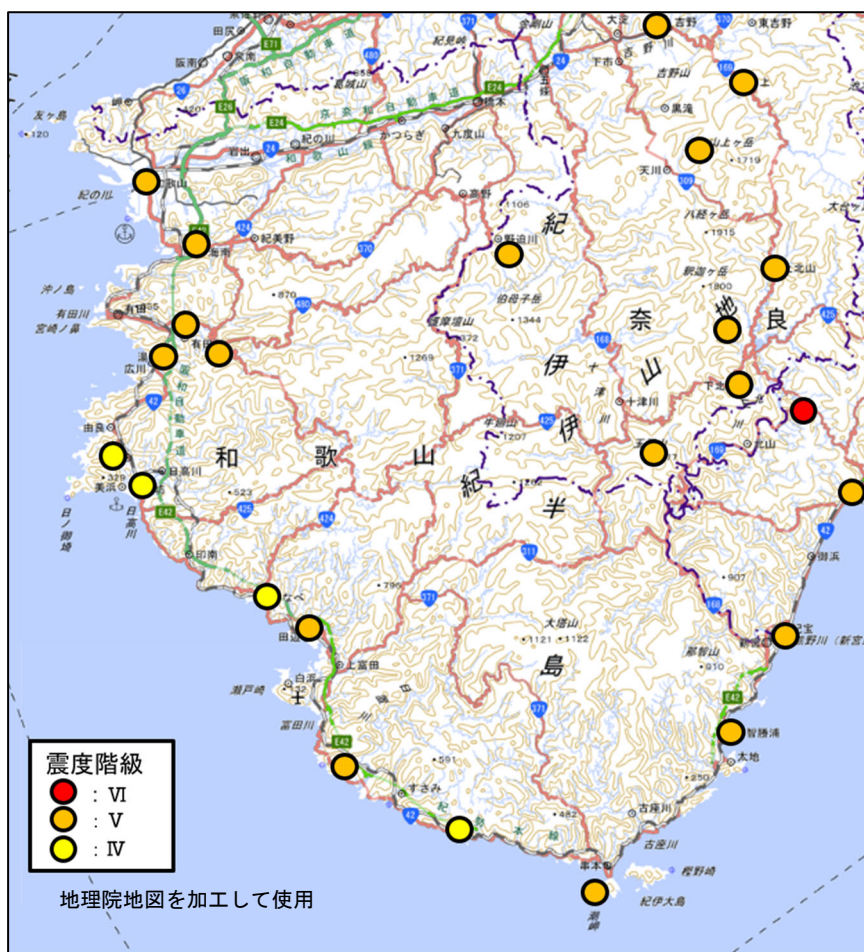


2. 地震一口メモ

昭和南海地震発生から 80 年 — 震度 —

和歌山県に甚大な被害をもたらせた昭和南海地震（※）が発生してから、今年で 80 年が経過することから、主に和歌山地方気象台が所蔵している資料を紐解いて観測や調査結果からどのような地震であったのかを数回にわたり振り返ります。今回は昭和南海地震で観測した震度について紹介します。

地震発生当時、和歌山県内には和歌山測候所（現在の気象台）と潮岬測候所で地震観測と震度観測を行っていました。しかし、和歌山測候所は、戦時中の空襲被害により観測が継続できなかったため、この地震の震度のみが記録に残っています。このほか、県内の各地の自治体等に気象観測や震度観測を委託していましたので、震度の観測記録が存在する地点があります。当時の震度観測は体感と家屋や周辺の状態により判断し、階級は無感からVI（烈震）までの7階級でした。



震度	観測地点	現市町村名
V	和歌山*	和歌山市
	潮岬*	串本町
	勝浦	那智勝浦町
	日置	白浜町
	海南	海南市
	田辺	田辺市
	田殿	有田川町
	石垣	有田川町
IV	湯浅	湯浅町
	江住	すさみ町
	志賀	日高町
	御坊	御坊市
	南部	みなべ町

震度観測表（和歌山県内）
* は気象官署

震度階級	解説
VI 烈震	家屋が倒壊し山崩れが起こり地割れを生ずる程度の地震
V 強震	壁に割目が入り墓石、石灯籠が倒れたり煙突や土蔵も破損する程度の地震
IV 中震	家屋の動揺が激しく、すわりの悪い花びんなどは倒れ、器内の水はあふれ出る。また歩いている人にも感じられ、多くの人々は戸外に飛び出す程度の地震

震度階級表（階級IV以上を抜粋編集）

震度分布図（隣接府県の観測地点は場所が確認できた地点のみプロット）

昭和南海地震（※）

発震時：1946（昭和 21）年 12 月 21 日 04 時 19 分

震源要素：32° 56.1' N 135° 50.9' E 深さ 24km（和歌山県南方沖） マグニチュード 8.0

出典・資料

地震観測原簿類 和歌山・潮岬測候所

気象要覧第 568 号（昭和 21 年 12 月）40～41 頁 中央気象台

験震時報第 70 巻（2007）29～49 頁 気象庁